

清水庁舎改修案「適当」

静岡市の検討委が報告

老朽化が進む静岡市役所清水庁舎の整備の在り方を協議する市の検討委員会（委員長・恒川和久委員長（委員長・恒川和久古屋大大学院教授）の委員らは7日、市役所に田辺信宏市長を訪ね、清水庁舎の現地改修案が適当だとする検討結果を報告した。

検討委は有識者や公募市民ら10人で構成。昨年6月



清水庁舎改修案を田辺信宏市長に報告する恒川和久委員長（中央） 7日午後、静岡市役所静岡庁舎

から計6回の協議を重ね、現庁舎を改修し、改修後の耐用年数を20年程度とする案をまとめた。恒川委員長は「委員、市民の思いを政策に尊重してほしい」と述べた。

清水庁舎はJR清水駅東口公園に移転新築する計画だったが、同公園に桜ヶ丘病院の移転が決まるなどの情勢変化を受けて方針転換した。曲折を経ただけに、田辺市長は今回の報告について「市長の任期中に方向性をいただき、肩の荷が下りた感じ。歩が進むと期待している」と話した。

検討委は2022年度中に残り2回の会合を開き、改修後の清水庁舎に導入すべき施設機能や、具体的な事業手法を議論するといふ。市は庁舎改修に向け、詳細な耐震診断にかかる経費を23年度当初予算案に計上する方針。